

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 0171700271.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL address: http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0171700271-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for 特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域住民やボランティアの方との交流を大切なものと考え、地域の行事には積極的に参加しており、ボランティアの方には見守りや付添いで一緒に参加していただいております。ホームの行事にはボランティアの方や運営推進会議の委員さんにも参加していただき、お手伝いや貴重なご意見をいただいております。近隣の方がホーム周りの草取りやホームで使えるような食器類を譲ってくれるなどいろいろな面で支えていただいております。入居者の皆さんが四季を肌で感じていただくため、季節ごとの行事で外出の機会を創り、楽しんでいただいております。職員は笑顔で優しく接するなど、穏やかな環境を創ることを心がけており、できるだけBPSDが出ないように関わるように努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は旧国鉄の瀬棚駅舎跡地にほど近く、幹線道路にも至近距離で、総合福祉センターや警察署、診療所も間近という利便性に長けた環境下に立地している。建物は木造平屋で、広い敷地にゆったりと建てられ、今年で設立12年を迎えた事業所である。当事業所の優れている点は、まず介護に対する真摯な対応が挙げられる。事業所内はスリッパやナースシューズといった上履きを使用せず、普通の家庭のような靴下のみの裸足の介護に徹している。まさにこの事業所が目指す、家庭生活の基本を踏襲する姿勢をはっきりと示している。優秀な点として次に挙げるのは入浴への取り組みである。入浴日の設定は介護の都合であるとし、毎日お湯を張り、その中で利用者は週2回以上入浴してもらう事をなんの躊躇なく実践している。まさに介護側の都合を優先しないという事業所の考えが明確に打ち出されている。毎月のお便りも個人別に作成され、日頃の様子から体調の変化や診察結果等々を仔細に綴り家族宅に送っている。介護側の論理を廃し、常に利用者の目線で介護に取り組んでいる当事業所に、今後も大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-62).

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が話し合っって作った理念があるほか、年度ごとに特に取り組むべき年度目標も話し合って決め、共有して日々のケアにつなげております。	理念はより具体的に実践に活かせるよう、年度ごとに目標を定め、今年は利用者さんの笑顔を見られるよう、イラッときたら7秒カウント、と自戒の込めた目標を掲げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の町内会に加入し、町内会行事にも積極的に参加しております。買い物や散歩の際も声をかけていただくなど交流を持っております。	地域との交流は熱心に行われ、清掃や傾聴、花壇の手入れ等のボランティアも受け入れており、小中学校への出前講座等も積極的に担うなど、地域の一員として役割を果たしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	あさなぎの紹介や認知症の相談を受けていることを町の広報誌で周知している。また、認知症サポーター養成講座の出前講座の受け入れなどを行政にも周知しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の利用状況、活動状況、ヒヤリハットや事故報告などを説明しております。避難訓練に参加した委員より今後も近隣住民の協力が大切であること、重度化した利用者の避難のためのスロープ設置の必要性など貴重なご意見が出され、反映されております。	地域や家族、行政等の参加を得て、定期的開催している。議事内容も行事報告に留まらず、事故やヒヤリハットも開示報告しており、また幾つもの貴重な提案もあり、サービス向上に繋げている。	2ヶ月毎の開催や広い論議に敬意を表したい。今後は議事内容を関係者を含め利用者家族宅に送付し、より意義深い会議になるよう、期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席やホームの行事に参加、協力しており、事業所の状況などを伝え、ご意見をいただいております。	行政の担当窓口には申請や相談で何度うかがい、情報交換等で協力関係を築いており、事業所の実情についてもアドバイスを受け、サービスの向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・虐待防止委員会を設置し、身体拘束廃止・虐待防止指針を策定するとともに、内部研修を開催し、全職員を対象に指針、マニュアルの周知徹底と身体拘束廃止についての理解と、取り組む姿勢の醸成を図っております。	拘束予防のため委員会を設置し、3ヶ月毎に研修を行っている。また現状に即した具体事例も毎日の申し送り時等で検討し話し合い、拘束も抑制も無縁なケアで日々介護に臨んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・虐待防止委員会を設置し、身体拘束廃止・虐待防止指針を策定するとともに、内部研修を開催し、全職員を対象に指針、マニュアルの周知徹底と虐待防止についての理解と、取り組む姿勢の醸成を図っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し、報告書で内容を職員全員が確認しております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時におけるご家族説明マニュアルを活用するなど、不安のないように十分な説明を行い、理解が得られるように努めております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族交流会で意見を伺う機会を設けております。ご意見箱も設置している他、ご家族が来所された際にお話を聴かせていただくようにしており、できるだけ運営に反映させるよう検討させていただいております。	利用者個々人の日常生活での出来事を写真を添付し、その家族宅にお便りとして毎月発行し、好評を得ている。それらの情報は家族が来訪した際に意見や感想となって表れ、また、家族交流会も毎年実施され、共に今後のサービスに繋げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見や提案を聴く機会を設けております。また、何かあればその都度話を聞いて取り入れております。その他に年1回代表者と職員との個別面談があり、意見や提案を聴く機会を設けております。	会議や申し送り時に色々な提案や意見が職員から出され、管理者を含め職員一同で検討している。また代表との個人面談の席も年に1回設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や各職員の努力や、資格習得への取り組みや取得を把握、評価をし、向上心を持って働けるように努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにし、個々に合わせた研修に参加できるようにしております。外部研修を受講した職員が講師となり内部研修を実施しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域医療と介護の連携推進のための懇談会に参加しており、同業者や医療関係者と交流する機会ができております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています	管理者・計画作成担当者が訪問し、ご本人から話を良く聴いて、不安や困っていることなど要望等を受け止め、安心して生活できるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安を受け止め、事業所を見ていただくとともに、事業所としての対応を事前に話し合うように努めております。必要時は家庭訪問をして話し合いをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思いやご本人の心身の状況を確認し、必要な支援を見極めるように努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であるという考えを職員で共有し、普段から調理や畑仕事で職員に教える場面を多く持てるようにセッティングや声かけに配慮しております。また、常に感謝の気持ちを伝えるよう心掛けております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況の変化などがあれば随時ご家族に相談して対応しております。できるだけ訪問してもらったり、行事に参加してもらい、ご家族の思いを受け止め、共に支えあう関係を築けるように努めております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町の行事や散歩、買い物などの外出を通して、知人や友人に会う機会を作り、関係が途切れないよう努めております。また、子供連れの方や犬の散歩をされている方には、時には声をかけてホームに入っただき、交流しております。	友人・家族の来訪時は寛げる様に配慮し、町のお祭りや行事にもお連れして、面会や再会の機会を作るなど、関係性が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の言動から関係性や相性、その時々々の状況を把握し、申し送り等で職員が共通理解し、対立や孤立がないように支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先の病院での面会で、ご本人の状況を確認したり、町内でご家族に会ったときは状況等を聞き取るようにしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	困難な場合が多いですが、言葉だけでなく表情や行動から思いの把握に努め、ご家族からも情報を得ながら意向の把握に努めております。	日々日常生活を支援していく中から、本人の思いや願い、嫌な事等を把握し、職員間で共有しながら本人本位の生活になるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話やご家族からの情報及びこれまで入所されていた施設からの情報などで、馴染みの暮らし方や生活環境の把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の観察や関わりにより、ご本人の心身の状態、有する力等を見極め、個人記録に記すことで現状の把握に努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の思いやご家族の意向を確認しながら、日々の観察をもとにミーティングでモニタリングなど職員で話し合いの上で介護計画を作成しております。	職員は介護計画の重要性を理解しており、短期目標の達成を念頭に日々の介護に臨んでいる。介護日誌には目標への進捗度を把握できる工夫もなされ、現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子やご本人が話されたこと、心身の変化の気づきを個人記録に記し、申し送りノートでも情報共有するとともに、介護計画の見直し時の評価や新たな課題にも活用しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の気分転換の外出に付き合うことや畑仕事の見守り等を行うとともに、ご本人の状況や家族の希望に応じて通院や送迎、食事内容など必要な支援は柔軟に対応しております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉施設やボランティアセンター、警察、消防など地域資源を把握し、日頃から連携をとっております。また、ボランティアセンターが行う行事への参加をしております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、ご本人やご家族が希望するかかりつけ医としており、外科や専門医などの受診もかかりつけ医の紹介を得ながら対応しておりますが、状況に応じて直接専門医を受診するなどの対応もしております。また、かかりつけ医による往診も受けております。	医療機関が少ないため、かかりつけ医が協力医である場合もあり、また専門医への受診も職員が同行することが多く、往診を含め希望に沿った医療体制で臨んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の体調不良などの気づきや情報を職場内の看護職員に報告、相談できており、必要時、受診や看護を受けております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はご家族と連携し、安心して治療ができるようにしております。また、主治医の説明時は同席させていただき、ご本人やご家族、相談員と相談し、早期に退院ができるよう努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいます。	重度化した場合や終末期のあり方についてご本人やご家族の意向に沿えるよう話し合いをし、ホームの対応の限界を理解していただき同意をいただいております。また、関係機関との連携にも努めております。	看取り介護について、契約時に指針を書面で説明し同意を得ている。また希望があれば、出来る範囲で本人・家族の意向を尊重している。終末期の介護に対する研修は看護職を中心に実施し、看取りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間、緊急時の対応マニュアルを作成し、職員間で共有しております。消防署にお願いし、普通救命講習を全員受講するようにしており、3年毎に再講習も受講できるようにしております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、近隣住民や警察署にも参加していただき、避難訓練を年2回実施しております。ほかに月に1回職員間でも避難訓練を行っております。また、町が実施する自然災害訓練にも参加するようにしております。	火災を想定した避難訓練を年に2回、地域住民や隣接する警察の参加を得ながら消防署の指導により実施している。冬季の災害対策として石油ストーブも用意し、突然の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、ご本人にわかりやすく、通じる言葉かけをし、不快な思いをしないような対応を心がけております。	声掛けや促し、誘導等では本人に判りやすい言葉や態度になるよう注意し、どんな状況でも落ち着いた気持ちのいい時間を過ごせるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に合わせ、掃除や家事の手伝い、買い物等の声かけ、入浴やゲームへの参加の声かけにおいては、自己決定しやすいような問いかけの工夫をしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースを大事にしながらも散歩や買い物などの外出の提案をしたり、手工芸を楽しむ時間を持ったり、希望に沿った支援を行うよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室に行けるよう支援しております。ホーム内でも希望により髪染めをしたり、外出時にはおしゃれ着に着替えたり、化粧をするなどお手伝いしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの他、食事の動作や時間、量を把握して献立に取り入れております。ご本人のできることを見極めて食事作りや片付けに参加していただいております。また、月に1回出前の日を設け、ご本人が好きなのを食べてもらっております。	献立は専門の係を決めて、平易にならない様注意し、いつも喜んでもらえる様工夫をしている。月に一度は外食や出前を頼んで、好みのメニューで食事を楽しんでもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況は個人記録に記し、病気や体調、習慣に応じた支援をしています。また、体重の増減に合わせた食事量の提供をしています。水分摂取が消極的な入居者さんにはゼリーやスイカなどで水分補給してもらうよう工夫しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や就寝時は口腔ケアを行っております。昼食後は全員には行っておりませんが、汚れや口臭が生じないよう見守っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間帯や習慣を把握し、排泄パターンに合わせたトイレ誘導をし、トイレでの排泄を促しております。	排泄はおむつ使用でもトイレで行うを基本として排泄支援に取り組み、時間や草で誘導し、無理のない排泄になるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取や食物繊維の多い食事にし、運動への働きかけなどしながら自然排便を促すよう取り組んでおります。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者さんのその日の希望を確認したり、体調や気分の良い時にあわせて声かけて、入浴していただいております。可能な方は、年に1度近くの温泉に入浴する機会を設けております。	入浴支援では、土日に関わらず毎日お湯を張り、いつでもだれでも入れる体制で臨み、週に2回以上の入浴になるよう取り組んでいる。またすぐ近くの温泉も利用し、温泉のお湯を楽しむ機会も設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れないときには無理に眠りを強要せず、職員が話し相手になったり、温かい飲み物を飲んでいただいたり、居室の温度や湿度にも注意するなどの支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方箋を綴り、副作用などを把握できるようにしております。服薬支援については、薬の受け渡しなどにおいて、声出し確認を励行し、ミスゼロを目指しております。また、服薬後等においては症状の変化の確認に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や畑仕事、買い物やドライブ、散歩、読書、編み物、手工芸など得意なことをやっていただき、役割や楽しみにつなげたり、気分転換をしていただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やご本人の気分や希望に合わせて買い物やドライブ、散歩、外気浴を楽しんでいただいております。花見や紅葉狩り、レストランでの外食、温泉入浴などに出掛ける機会を設けております。	春の桜見物、秋の紅葉狩りと近くに景勝地がありドライブで楽しむ他に、外食や温泉も利用し外出の機会を設けている。また、近隣のストアーでの買い物やご近所への散策など、閉じこもらない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお金を預かり、事業所が管理しております。希望に応じて週刊誌やおやつなどの買い物で使えるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでもご家族などに電話ができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールのソファの配置を工夫し、一人ひとりが居心地の良いスペースを確保できるように支援しております。蘭玉飾りやクリスマスツリー、七夕飾りなどで季節を感じて頂いたり、月毎に季節が感じられるタペストリーもホールに飾ったり、季節感のある花を飾っております。ご飯の炊ける匂いや茶碗を洗う音など生活感を取り入れる工夫をしております。	居間兼食堂のあるホールは採光がよく、湿度も適性に守られ、快適な空間となっている。また季節感に富んだ花や装飾もあり、落ち着いて談笑できる工夫が活かされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファやテーブルなどを配置し、一人で過ごしたり、仲の良い入居者さん同士でつるげるスペースを作っております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前から使っているものを持ち込んだり、ご家族の写真や人形などを飾ったり、仏壇を置いたりしてご本人の意向やご家族の思いも聞きながら居心地良く過ごせる部屋になるよう配慮しております。	居室は、以前から使い慣れた家財が置かれ、壁には家族の写真等もあり、また仏壇のある利用者もいて、それぞれが自分の部屋として居心地よく過ごせる工夫が感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、廊下などには手すり、玄関には座って靴が履けるようにベンチを置くなど、自立した生活が送れるよう工夫しております。また、必要に応じて部屋など分かりやすいように表示しております。		